



作 長谷川幹人

思春期インターネット・ゲーム依存症専門外来について

当センターでは、令和2年度より思春期ゲーム依存症診療を始めています。

新型コロナウイルス感染症の流行による休校や外出の自粛により、子ども達は自宅で通話アプリを使用しながらオンラインゲームで交流を深めるなど、遊び方も多様化しています。大人数での勝ち残りを競うバトルロワイヤル系ゲームから、3対3のチーム対戦系ゲームなどのより連帯感を深めるゲームも流行しています。リアルな友達と始めたオンラインゲームが、段々と野良（知らない人と遊ぶこと）で遊ぶ時間が増え、学校再開後もゲーム中心の生活が変わらず、不登校が浮き彫りになり受診される方が多いです。こうしたゲーム依存症に陥る背景には「PHUBBING」に代表される、家族間のコミュニケーションに齟齬などがあり問題解決の糸口を見失っていることが実感されます。当センターでは横浜市立大学を中心に共同で開発した、親子を対象とするボードゲームを使い家族間のコミュニケーションを支援するグループ療法を行っています。患者さんが、まずは家庭の中で安心して過ごせる様に丁寧な関わりを心がけています。

思春期ゲーム依存症診療に関する詳細は、当センターHP内に掲載しておりますのでご参照下さい。



Contents

当センター職員の新型コロナワクチン接種が完了しました。
今後も感染防止対策を徹底して診療にあたってまいります。

- 思春期インターネット・ゲーム依存症専門外来について
- 新任職員の紹介
- 小林副院長就任にあたって
- 部署紹介リレー 連携サポートセンター

新任職員のご紹介



精神医療センターの新任職員をご紹介します。

菊地 祐子 部長

今年の3月までは都立小児総合医療センターで、リエゾンコンサルテーションを主軸に、緩和ケアや虐待対応など小児科領域における種々の心理・社会的な問題に取り組んできました。発達障害や愛着障害、若年期発症の精神疾患など児童思春期の精神科全般を専門としていますが、最近はトラウマについての学びをさらに深めたいと思っています。精神科病棟で働くのは11年ぶりとなりますが、院内の皆様を支えられて、日々楽しく過ごしております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



鈴木 悠 医長

岩手医科大学卒業後小児科医として被災地域での勤務を経験しました。その中で、児童精神科に関心が高まり、令和元年から2年間神奈川県立こども医療センター児童思春期精神科で専門研修を受けました。児童思春期病棟で働く中で精神科をより深く学びたいと思い、当センターに入職しました。当センターは患者のみならず家族の幸せを多職種で支えていくチーム医療を学べる最高の病院と感じています。研鑽を積み将来は、身体面、精神面で子供・家族をサポートできる精神科医・小児科医として、社会に貢献したいと思っています。



義井 真 医師

私は今年、当センターでの専攻医プログラムを修了し、続けて当センターに入職いたしました。

まだまだ未熟者で至らない点が多いと思いますが、これからも精進し、医師として、ひいては人間として成長し、より多くの患者さんの治療に貢献したいと考えております。よろしくお願いいたします。



吉田 勝臣 医師

3年間の当センターでの専攻医プログラムを経て、今年当センターに入職致しました。ストレスケア病棟配属にて勤務しておりますが、まだ知識経験ともに至らず皆様に助けられていることを痛感する日々です。今年からは、専攻医として様々な病棟や職種と関わった経験を活かし、他職種間のコミュニケーションの促進や協力体制作りに貢献していきたいと考えています。どうぞ宜しくお願い致します。



楠 頭子 事務局長

この4月から事務局長として参りました。これまで神奈川県で、保健医療計画の策定や救急医療体制の構築、産科医師の確保、看護師の養成確保対策など、長年、保健医療行政に携わってきました。そして、コロナ対応真っ只中で、初めて医療の現場を経験することになりました。これまでにない経験を通じて、日々、新たな発見、知識に触れ、新鮮な驚きと感動を覚えながら過ごしています。皆様とのご縁を大切に、皆さんを支え、皆さんに支えられながら、明るく前向きに仕事をしていかねばと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



矢島 由美子 医事課長

4月より循環器呼吸器病センターの医事課から参りました。医事課の業務は幅広く、診療報酬請求業務、カルテ管理、市町村への届出や申請、施設基準など多岐にわたります。業務を進めていくには院内の他部署との連携がとても重要となりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



石田 正人 地域連携・訪問支援科長

本年4月より新たな新設された部署で勤務することになりました。これからの精神医療は地域中心、その役割を果たすことができるよう院内・外の連携が円滑にできるようつながりを作りたいと思っています。特に、地域移行、地域定着に向けてアウトリーチを充実させ地域に開かれた病院を目指すため関係機関といかに円滑な連携システムを構築していくかが課題と考えています。皆様のご協力あつての部署ですので、今後とも連携よろしくお願いいたします。

**和田 拓子 5A病棟看護科長**

患者さんの人生のリカバリーに伴走できる精神科看護に魅せられて、早うん十年となりました。看護師経験の中で一番長く携わっている科となりますが、今後もひとに寄り添い共に成長できる精神科看護の醍醐味をスタッフとともに経験していきたいと思っています。最近ハマっている趣味はミニチュア製作とがちゃぼん収集です。将来はものづくりの人になりたいです。悩みは早口が治らないことです。どうぞ宜しくお願いいたします。

**大横田 美知技 2B病棟看護科長**

4月より新任科長としてこども医療センターから参りました。長らく子どもの内科・外科・救急・外来の看護に携わってきました。大人の精神科看護の経験はありませんが、依存症など精神の患者さんの背景に触れながら、小児看護とのつながりを強く感じ、学びも多く新鮮な毎日です。精神科領域も科長職も未熟ではございますが、一つずつ真摯に取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

**石川 慶子 福祉医療相談科長**

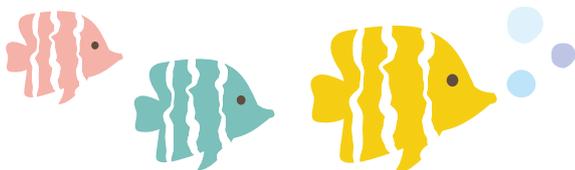
この度、福祉医療相談科の取り纏め役を命ぜられました。相談科に配属されて以来、職場のスタッフに恵まれ、皆さんにお力添え頂き、チーム医療の一員としてソーシャルワークを展開してまいりました。今後も相談業務を通じて、ソーシャルワーカーの仲間と患者さん一人一人の強みや良さを大切に、地域生活を支える役割を果たせるよう精進していきたいと思っています。引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

**相場 百合 3A病棟看護科長**

この度保健福祉大学実践教育センターより異動して参りました。精神科は未経験ですが、皆様にご支援をいただきながら何とか勤めております。入職は循環器呼吸器病センターで、その後看護基礎教育や卒後教育を経験し、看護も教育も相手の強みを引き出す関わりと関係構築が重要だと実感しています。こちらでも対象の「ストレングス」に着目し、チームで協働して個別の支援につなげたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

**新任看護師及び
コメディカル部門
職員**

- | | |
|-------------|------------------|
| ・黒川 眞美 看護師 | ・布田 美岬 看護師 |
| ・黒河 弓穂 看護師 | ・橋本 琢磨 看護師 |
| ・齋藤 愛美 看護師 | ・牧田 雅美 看護師 |
| ・坂間 恵美子 看護師 | ・増山 万里子 看護師 |
| ・櫻田 豊大 看護師 | ・森友 梨緒 看護師 |
| ・立川 淳一 看護師 | ・山下 真澄 看護師 |
| ・長居 大和 看護師 | ・湯浅 順子 看護師 |
| ・西島 朱里 看護師 | ・瀬戸 正史 ソーシャルワーカー |
| | ・並木 千乃 ソーシャルワーカー |
| | ・市川 萌 作業療法士 |
| | ・西 麻由美 心理士 |
| | ・池田 裕晃 薬剤師 |
| | ・尾原 愛子 栄養管理士 |



小林副院長就任にあたって



令和3年4月1日付で副院長に就任いたしました小林です。今年度から県立精神医療センターも医師の副院長職が2人体制となったことで、副院長も院内の管理的な業務だけでなく、外来や病棟など臨床業務も一層の分担が求められることとなります。当センターの強みは県内の精神科病院の中で比較すると相対的にマンパワーに恵まれ、専門性の高いスタッフが多数在籍しているため、多職種が連携することにより、精神の病の中でも特に病状が複雑で治療が困難な患者さんにも対応することができる、という点にあります。田口所長、小澤副院長、そして全病院スタッフと力を合わせて県民の負託に応えることができるよう、引き続き努力して参ります。今後ともよろしく願いいたします。

部署紹介（連携サポートセンター）



令和3年4月、当センターに連携サポートセンターが新設されました。連携サポートセンターは、地域連携・訪問支援科、福祉医療相談科から構成されています。構成員には、医師、看護師、精神保健福祉士、事務職がおり、地域と病院が協働しながらこれからの精神医療に対応していけるよう、連携体制の構築を目指しています。

この四半世紀、精神科医療における治療の場は、入院療養中心から地域での生活を主軸とした外来診療へ大きな変革を遂げています。また、精神疾患の早期発見、早期治療が社会的予後の好転をもたらすことも広く知られてきました。

当センターは神奈川県精神科中核病院として、医療の必要が生じた患者さんに対して速やかに精神科の治療を提供すること、そして、多職種と連携しながら患者さんの地域移行・地域定着支援につなげていくことを目指しています。そのためには、病院内の連携を強化するだけでなく、地域の関係機関の協力が不可欠と考えています。地域移行・地域定着に向けた支援が停滞せずに、患者さん一人ひとりのニーズに応じた社会資源を結びつけ、精神科医療と地域の関係機関といかに円滑な連携システムを構築していくかが課題と考えています。

複数の機関で連携し多職種が協働することによって、患者さんの回復を支える力は1+1=2といった総和ではなく、3にも4にもなる相乗効果をもたらすのだと思っています。

専門機関、専門職同士が手を取り合うことで、患者さんの豊かな人生を取り戻す、生活につながるためのお役に立てることを目指していきます。

患者さんのための連携の形を、皆さんとともに作り上げるべく職員一同尽力して参りますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。